

茨木市施政方針

3月4日から市議会定例会が開かれ、福岡洋一市長が令和8年度の市政運営の基本姿勢を示す「施政方針」を発表しました。その一部を紹介いたします。問合先 政策企画課 ☎072・620・1605



ID 14462

※政策の主な事業は、広報いばらき5月号で紹介いたします。



茨木市長
福岡 洋一

プロセスを重視した

プロセス
ひと

共創のまちづくりを推進

「共創」をキーワードに 市の活力を維持

令和7年度は、大阪・関西万博が賑わいを見せた一方で、依然続く物価の高騰が市民生活に影を落とすとともに、災害級の酷暑、また全国各地で熊による脅威も発生しました。こうした事態に対し、本市としても皆さまの暮らしを支える施策や対応を講じたところです。そのような状況下においても、本市在住の森 健司選手の東京2025デフリンピックにおける金メダル獲得や、畠山丑雄氏の小説「叫び」の芥川賞受賞など、喜ばしいニュースもありました。

また、本市人口は長らく増加トレンドにあります。仮に人口が減少したとしても、本市の活力を維持していくためには、「共創」をキーワードに、市内外の

皆さまの日常・非日常の活動を創発してまちの景色にしてい、交流人口や関係人口の創出に努めていくことが肝要です。

皆さまとの「問い」を大切に

「共創のまちづくり」においては、多種多様な皆さまとともに、「問い」を大切にしながら、対話と議論、実験を積み重ねてまいります。そして、人それぞれが備える感性や感情を大切に、「コト」や「トキ」の共有から共感を、さらに共鳴するかに、新たな活動を呼び起こすことで、皆さまそれぞれの自己実現や「豊かさ・幸せ」の実感につながってまいります。

共創のまちづくりの象徴であり、中心地・実験場である「おにクル」は、2年目も延べ約200万人の皆さまにお越しいただきました。3年目を迎え、

さらなる深化はもちろんのこと、皆さまとの共有・共感を前提に、「おにクル」の外へ、まちへの展開に挑戦してまいります。

「ダムパークいばきた」には、昨年、長さ日本一の歩行者専用吊り橋「ゴウダブリッジ」が完成しました。多くの皆さまとともに、引き続き山とまちをつなぐハブ拠点をめざして取組を進めてまいります。

共有・共感の熱量が 輝かしい未来への変化に

共創に向かっては、市民、事業者、大学、高校等の皆さまも、とても大切な存在です。これまでも、「共創のまちづくり」をプロセス重視、ひと重視を進めてまいりました。皆さまと試行錯誤を積み重ねて生み出される共有と共感、熱量となり、関わった一人ひとりの中に蓄積されま

す。まちのあらゆるところに、たとえ小さくとも尊い、幸せや達成感、つながりが感じられる居場所、共創の場があり、そこでの熱量を積み重ねていけば、時には人をやさしく温める力に、時には自己実現へ動かす情熱に変化して、時がたっても強く残る想いへとつながり、皆さまそれぞれにとつての、そしてまち全体としての「安全・安心」「豊かさ・幸せ」へ昇華されていくもの、と確信しております。

令和8年度におきましても、プロセス重視、ひと重視の共創のまちづくりを進め、輝かしい未来に向けた確かな変化をもたらすべく一つ一つ積み重ねていく決意と覚悟です。市民の皆さまにおかれましては、市政の推進に、より一層のご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

機構改正

市政の推進を支える体制づくり

ID 13647

本改正によって、将来を見据えた組織体制の整備を行い、市民サービスのさらなる向上に取り組みます。

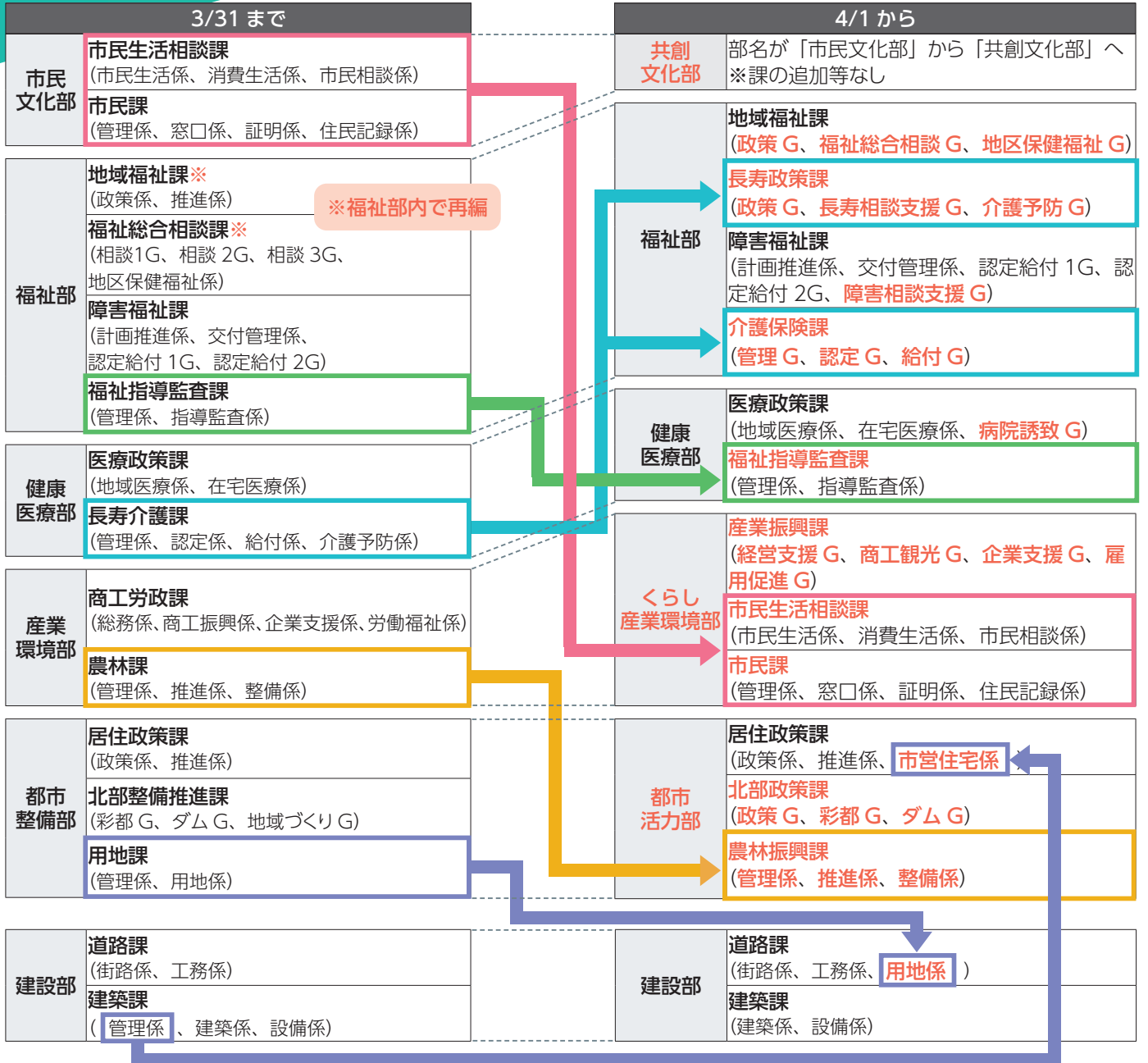
詳しくは市ホームページでご確認ください。



主な改正



太字 = 新設・再編等、G = グループ



フロアマップ

ID 64332

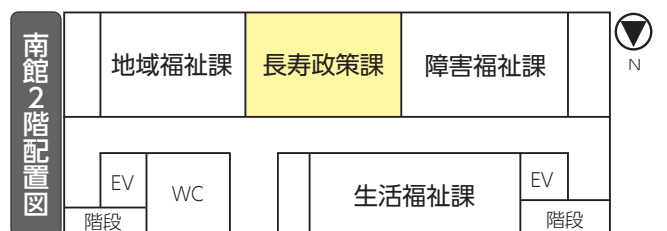
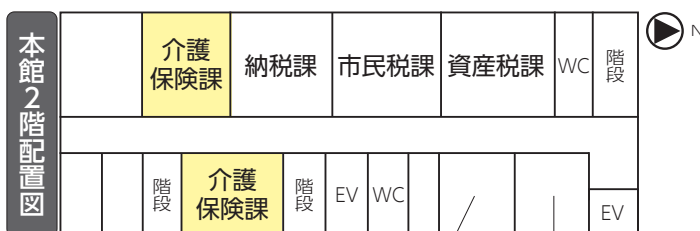
事務室配置に大きく変更があったフロア

その他のフロアはこちら▶



新設または事務室配置の変更があった部署

※ EV = エレベーター、WC = お手洗い



地域コミュニティ課 人権・男女共生課